

諫早市教育委員会議事録

令和 6 年第 1 3 回（1 2 月定例）

令和6年第13回（12月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和6年12月19日（木）
16時00分～17時00分
- 2 場 所 諫早市役所 7階 会議室7－1
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 新野 純子
学校改革推進室長 池 政信
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 竹島 健吾
諫早図書館副館長 野下 澄子
- 5 議 題
報告第12号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案
についての意見の申し出について（「令和6年度
諫早市一般会計補正予算（第5号）」中、11款
教育費））
議案第18号 令和7年度県費負担教職員人事異動方針について
議案第19号 諫早市立図書館条例施行規則の一部を改正する規
則

議事録署名人の指名

原田委員と小野委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和6年第12回（11月定例）教育委員会の議事録について
山口委員及び中野委員より自身の発言について修正の意見あり
一部修正を了承の上可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

最初は「確かな学力の育成」である。とにかく基礎、基本を充実させることと、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学びが重要であり、学校でも意識しながら取り組んでもらっているところである。

まず、1番目の教材教具の整備充実について。1人1台のタブレット端末の更新を早い時期に実現して、子供たち1人1人の学びの充実とICT環境のさらなる充実を図る。タブレット端末は耐用年数が大体4年から5年ぐらいと言われているが、今年で4年目になる。最近、各学校からタブレット端末の修理の依頼が非常に増えてきている。だから、早い時期に端末の更新したいところであるが、諫早市約1万人の子供たちの端末の更新は相当な金額になるので、国からの補助も活用しながら予算を確保できるよう努力している。早い時期に更新できればと思う。あわせて教職員の端末整備であるが、教職員の端末は授業を担当している職員に貸与している。しかし、授業をしてない校長先生や養護の先生なども端末は必要だと考えているので、更新の際に整備したいと考えている。

2番目。学習指導方法を工夫しながら力強く、学力向上対策を実施するということで、市教委で学力向上瓦版を出している。それか

ら、研究主任研修会や研究指定校の取り組みを参考にして、自校での学力向上対策を力強く推進してもらっている。いろいろな意味で学力が上がってきたことを実感する。研究指定校の授業等を見せてもらおうと、あと一歩ではないかと思うので、間もなく良い知らせを皆さんに届けることができるのではないかと思う。

3 番目、読書活動の推進について。諫早は「図書館のまち諫早」ということで、最近も新聞で図書館の活躍ぶりを見ていただいていると思うが、学校図書館も重要になる。学校図書館には運営支援員という人がおられて、その支援員と連携しながら子供の読書環境を充実するとともに、調べ学習の機会を増やすよう各学校に努力してもらっているところだが、さらに支援員の方に読書活動について創意工夫をしてもらいたいと思っている。

4 番目。情報モラル教育の充実ということで、家庭の協力を得ながら情報モラル教育を充実させる。ネット犯罪の加害者や被害者にならないよう指導を行うということだが、これが一番喫緊の課題だと考える。見ず知らずの人と会ったりするということが現実に行き起きているので犯罪にも直結する。加害者になってもいけないし、被害者になってもいけない。

また、国際理解教育の推進、小中学校及びALTと連携しながら外国語教育を充実させる。4 技能を充実させるとは、「読む・書く・聞く・話す」という4つの技能を充実させて真の力を養成することである。それから、最近は外国籍児童生徒が増えてきているので、その子供たちに対する支援も必要である。今後ますます増えてくると思うので、例えば、鎮西学院大学の学生で児童生徒と同じ母国語を使う学生がいれば、学校へ来てもらい教えてもらおうということも考えられる。ただし、その場合の交通費等はどのようにするのかというような問題もあるので、その予算措置を考えているところである。

次に、ふるさとキャリア教育の推進。やはり、ふるさとへの愛着というのが一番大事なところだと考える。私は、諫早から外に出てもいいと思っている。ただし、心のどこかには「故郷・諫早」というのを忘れないでいてほしい。だから、我々はそういう教育をしなければいけないのではないのかと思っており、市外に出た後に帰ってきて諫早のために尽くすということでもいいし、外から応援をしてもらおうということもあり得るのかなと思っている。

2 つ目は「社会全体で子供を育む」についてだが、学校、家庭、地域・企業等が協力し社会全体で子供たちを育む必要がある。学校は、長時間勤務の改善などをしながら子供と向き合う時間や授業研究の時間確保に取り組み、働きがいを持って働ける環境とより良い

教育の提供を行う。家庭においては、家庭教育の役割の理解と実践、家庭でのしつけ教育も含めてしてもらいたいと思っている。問題行動がある子供は家庭教育が不十分で、愛情がかけられてなかったり、放任されていたりする傾向があるようなので、そこは保護者の方には是非役割の理解と実践をしてもらいたい。また、学校の働き方改革に関する理解と学校・地域と協力した教育の実践についてもお願いをしたい。

次に、地域・企業は人材専門的知見の供給である。せっかく地域にも優れた方がいるので、そういう方々や企業の方々の力を借りたいということである。学校、家庭と協力して地域の子供を地域で育てる。なお、諫早商工会議所青年部や諫早青年会議所の方々が学校に出向いて職業講話などの活動を行っている。先輩として、様々な働きかけをしていただいて、非常にありがたく思っている。

諫早市も学校・家庭・地域がスクラムを組んで力強く実践していきたいと考えており、それを具現化するのがコミュニティスクールである。今、コミュニティスクールの導入に向けて各学校が取り組んでいる。全ての学校において導入や委員の選定が円滑に進むよう今後一層環境を整えていく。そのため、コミュニティスクールの委員にも何かしらの報酬や金銭的な面を含めてお願いをしないと、ボランティアでは長続きしないのではないかと思いますので、研究しているところである。

12月の行事予定の中から報告をしたい。まず、出雲市、津山市、諫早市の3市で姉妹都市を結んでいるけれども、12月4日にオンラインで「我が町自慢」があり、諫早市では長里小学校が担当した。また、3市で協力して1月から給食交流会を行う。これは3市で同じ日に共通した料理を食べるというもので、1月は諫早の「ぬっぺ汁」、2月は出雲の「のりふで」、3月は津山の「そずり鍋」が出される。なお、「のりふで」は岩のりをお汁にした料理で、「そずり鍋」はそずり（削り）肉を使った料理になり、それぞれの郷土料理をお互いが紹介しながら同じ日に食べて交流をする予定である。

頌徳祭は、諫早小学校で8日に行われた。諫早の教育に尽力したお医者さんの土橋貞恵先生。それから、儒学者、好古館の先生であった福田渭水先生。諫早の教育に非常に貢献されたというようなことで、5年生がお二人の功績を劇風にして紹介をしていた。なお、森山東小でも土橋貞恵先生が森山町で医者として開業されたということで貞恵祭が行われている。お二人とも当時のお金で莫大な金額を諫早市のために寄付していただいたということであった。

それから、イングリッシュスピーチコンテストが14日の土曜日

にあった。今までは平日にしていたが、平日にすると子供たちは授業の時間を割いて参加しなければいけないので、授業を受けられなかったり保護者も仕事で見ることができなかったりといいうことで、土曜日に行ったがすごく好評であった。たくさんの保護者の方にも来てもらい見てもらうことができた。もちろん校長先生を始め学校関係者にも見てもらったのだが、英語に非常に造詣の深い方から「スピーチコンテストのレベルが高くなってきた」と、一番嬉しいことばをかけてもらった。なお、優勝したのは森山中学校の女子生徒であるが、話を聞くと昼休みに勉強とかではなくALTとゲームや英語で会話する時間をもっているそうで、日常の遊びの中で喋っているうちに上手になっていたということであった。小学生の代表2名と中学生の代表2名は2月に県大会があり、活躍が期待される。

12月議会は昨日閉会した。一般質問では20人質問された中で13人の議員が教育問題について質問をされた。内容としては部活動の地域移行やプール問題、GIGAスクール、不登校・いじめの問題、小長井の義務教育学校、それから閉校後の跡地活用などについての質問であった。

この後の予定であるが、八江学芸祭が21日土曜日、諫早駅の交流広場で小学校2校、中学校9校が参加して行われる。文化会館が使えないから交流広場とするのだが、駅なのでいろいろな人を見ることができ、クリスマスプレゼントになるのではないかなと思っている。

終業式は24日で子供たちは25日から冬休みになる。仕事納めは27日で、29日から1月3日は年末年始の休日になる。今回は土日があるので9連休になる。非常にありがたい曜日の組み合わせになっている。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

以前、ウクライナから来られてALT補助をしていた方がいたと思うが、まだ続けているのか。

[学校教育課長]

他の仕事に就くため、すでに諫早から転出されている。

[委員]

外国籍児童は、諫早ではまだそんなに多くないと思うが、徐々に増えて問題になりつつある。小学校に上がった時に日本語が喋れればいいけれども、喋れない子が結構いるはずなので、その対応は考

えているか。

[学校教育課長]

鎮西学院大学の学生はいろいろな国から来ているので、サポートをお願いして学校に来てもらい、週に1回とか、月に1、2回といった回数で、悩みを聞いてもらったり、教えてもらったりしている。

[委員]

言葉が分からず普段の学校の授業に着いていけないまま小学校に通うことになりかねない。おそらく外国籍の児童が小学校に上がったときに教育をどうするのかということが、いろいろなところで問題になってくると思う。

[教育長]

翻訳機も使っているのか。

[学校教育課長]

翻訳機も使っているが、言った通りに翻訳されないこともある。子供たちの母国語が確定するのは大体小学校の2、3年ぐらいまでというふうに言われている。子供によって差があるが、小学生ぐらいであれば日数を重ねていくうちに、子供たち同士で馴染んで徐々に日本語を覚えていくので、サポートを必要としない子供もいるようである。中学校から来日するとなれば、すでに母国語が決定していて新たに言語を覚えることになるが、日本語の習得には、学校の中で子供たちと接して、子供同士支え合うことが大事なことだと思っている。

[委員]

家庭教育の役割、理解と実践についてであるが、結局、虐待の連鎖ではないが愛情を受けて育っていない保護者は、自分の子供にも同じようになってしまう。学校だけではなく社会全体でそういうところをサポートするような仕組みを国が作ってくれないかと思っているところである。

[学校教育課長]

生涯学習課の管轄になるが、スクールソーシャルワーカーが家庭と関係機関をつなぐ役割を担っている。スクールソーシャルワーカーの働きかけで信頼関係が築かれ、「このように指導してください」や「生活はこうしましょう」といった具体的なアドバイスが可能になる。諫早市には3名のスクールソーシャルワーカーがいるので、今後はその点にも期待しながら進めていきたいと思っている。

[委員]

確かに、信頼関係ができるかできないかは大切で、自分は全然相手にされていないと思っているのか、それともこの人は話を聞いて

くれると思っているのかで決定的に違う。

[学校教育課長]

スクールソーシャルワーカーの話に付け加えさせてもらうと、学校も誠心誠意対応した上での話である。

[委員]

情報モラル教育の充実とふるさと・キャリア教育についてだが、私も情報モラル教育はとても重要だと思っている。子供たちに講話をするときには、必ず「車の免許と同じだよ」と話すようにしている。車は非常に便利でなくてはならないものだが、無免許運転をすると人を傷つけたり、自分自身を危険にさらすことになる。情報モラルの端末も同じで、正しい使い方をすればとても便利で素晴らしいものである。だから、一緒に勉強しようというふうに話をしている。やはり、子供たちに正しい使い方を伝えることについては、保護者にも周知する必要があると強く感じている。

たまたま新聞を見ていると、埼玉県のアナログで2016年からデジタルシチズンシップ教育が行われており、そこでかなりの成果を上げているという記事が載っていた。そこは教育委員会が主体になってしているということなので、諫早市も系統だったデジタルシチズンシップ教育を計画すればいいのかなと思う。

それと、ふるさと教育を進める上では、アナログでの伝え方やいろいろな場所を訪れたり発表したりすることも大事だし、加えて、デジタルの活用として、例えば諫早市のLINEを登録したり、または諫早市のインスタグラムをフォローすることによって、諫早市の四季折々の素敵な写真が流れてくることがあるので、中学校卒業時に子供たちに諫早市のLINEやインスタの登録を呼びかけるのも良いのではないかと考えている。

[委員]

通学合宿所はどのような内容になるのか。

[生涯学習課長]

通学合宿は、長くて1週間、短くて約3日間のプログラムで、地域の公民館に寝泊まりしながら、自分たちで朝ご飯や夕ご飯を作り、買い物や掃除も行い、地域の方の家にお風呂を借りに行くなどの活動を学校に通いながら行う。地域の方々のサポートと協力を得て行うのが通学合宿の特徴である。資料写真の高来西小学校では3泊4日で実施されており、高来西ゆめ会館に宿泊し、地域の婦人会の方たちと一緒に食事を作ったり、大学生に勉強を見てもらったりしながら活動を行った。

[委員]

何年生ぐらいが対象になるのか。

[生涯学習課長]

大体４年生から６年生が対象になる。高来西小学校では参加した子供が２０人ぐらいで、それには、１００人ぐらいの大人が関わっている。

[委員]

先生たちもかかわるのか。

[生涯学習課長]

先生たちは、様子を見に来る程度。

[委員]

以前から行われているのか。

[生涯学習課長]

１番長く行っている西諫早小学校は、１２～３年前ぐらいからされている。

[教育長]

ずっとしてこられて、後継者問題やコロナでの中断があったりして再開するのも大変だったという話も聞いている。もらい湯をするのも子供といえども断られるところもあると聞いたが、その辺はどうか。

[生涯学習課長]

もらい湯をお願いする家庭は、小学生からするとおじいちゃん、おばあちゃんぐらいの世代のところが多いと思うが、協力的な方が多く、久しぶりに子供と話ができたと喜びの声もある。

《議題》

報告第１２号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和６年度諫早市一般会計補正予算（第５号）」中、１１款教育費））

教育総務課長 説明

《教育総務課長の説明に対する質問・意見》

[委員]

管理業務の中で、「少年センター、市民センター、公民館」という項目があるけれど、「市民センター」は中央公民館のことになるのか。

[生涯学習課長]

中央公民館のことである。予算上では「市民センター管理事務」という事業名になっている。

了承

議案第18号 令和7年度県費負担教職員人事異動方針について

学校教育課長 説明

質問・意見なし

原案可決

議案第19号 諫早市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則

諫早図書館副館長 説明

質問・意見なし

原案可決

《学校改革推進室長からの報告》

諫早市立長里小学校及び遠竹小学校の閉校記念式典について

《学校改革推進室長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《生涯学習課長からの報告》

令和7年諫早市二十歳の集いについて

《生涯学習課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

その他

教育総務課長

1 月定例教育委員会及び令和 6 年度諫早市総合教育会議の日程
について説明

1 7 時 0 0 分閉会